

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KGI) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部教員の総数に占める研究科担当教員を増加する。	→学部教員の総数にしめる研究科担当教員の比率。	B	B	B	B	
2. 学外の実践家や政策担当者などゲスト・スピーカーを増やす。設置理由 実践と研究と教育を連携させる教育研究組織にするためには機動力のある運営が必要である。	→学外の実践家や政策担当者などゲスト・スピーカーの数。	B	B	B	B	
3. 研究科の研究組織としての使命・目的と実際の研究組織の適合性を定期的に検証する。	→大学院諸問題検討委員会の開催とカリキュラム、研究教育組織の点検回数と件数。	B	B	B	B	
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	学部教員の総数に占める研究科担当教員の割合には大きな変更はない。
目標2	学外の実践家や政策担当者などのゲストスピーカーは、一部(社会起業および人間科学関連)で実現している。
目標3	研究科の使命と目的に照らして実際の教育研究組織の適合性を、大学院諸問題検討委員会および研究科委員会において検討している。
備考	